⑱宮古盛岡横断道路（区界道路）整備事業

受賞機関　国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所

キーワード　厳しい環境下、急速施工、対凍害性コンクリート

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災で被災した沿岸部と内陸部を結ぶ復興支援道路として、国道106号の隘路を解消し、速達性の向上を図る自動車専用道路の整備。破砕帯や蛇紋岩等、困難な地質条件の中で、切り羽の複数化や機械の大型化等により効率的な施工を実現し、品質確保を図った点が評価された。

1. はじめに

国道106号宮古盛岡横断道路は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県沿岸部（宮古市）と内陸部（盛岡市）を結ぶ道路であり、東日本大震災の被災地復興のリーディングプロジェクトである復興支援道路に位置づけられ、直轄権限代行事業として国土交通省が整備を進め、令和３年３月までに延長66kmが開通している。そのうち区界道路は、宮古～盛岡間最大の難所である「区界峠」を解消する延長８kmの自動車専用道路である。

2. 事業の概要

区界道路は、沿岸部と内陸部の連携強化による交流促進や地域産業の振興のほか、急カーブ・急勾配区間が多数存在し、走行環境の向上が強く求められていた。また、区間内に岩手県最長の道路トンネルである「新区界トンネル（4,998m）」が存在するため、掘削工事の早期完了とともに、冬期の－20℃にも及ぶ厳しい環境下においても品質を確保することが求められた。

対策として、宮古側と盛岡側の本坑からの切羽に加え、避難坑から本坑に分岐した切羽も含め最大４つの切羽を立て、急速施工に取り組み、平成27年２月の掘削開始から２年９ヶ月後の平成29年11月に貫通した。また、岩手大学、岩手県生コンクリート組合、鹿島建設技術研究所と共同で通常のコンクリートよりも空気量を多くした対凍害性コンクリートを開発し、凍結防止剤の影響を受けやすい両坑口100m区間の覆工コンクリートに採用し、品質の向上を図った。

これらの取り組みの結果、区界道路は、事業化から約10年にあたる令和２年12月５日に無事開通することができた。

新区界トンネル　盛岡側坑口

3. 事業の成果

今回の開通により、宮古～盛岡間で急カーブ・急勾配区間が最も多く、重大事故の多発する区間を回避することができ、冬期間においても安全・安心な走行環境を確保することが可能となった。それにより、地域産業における輸送の効率化や救急医療活動、観光流動を支援することが期待されている。

区界道路開通式（令和２年12月５日）の様子

4. おわりに

区界道路の開通以降も、復興道路・復興支援道路の整備は着実に進展しており、令和３年内に全線開通することが予定されている。今後はこれらの道路を活用し、一層の地域活性化につなげていくことが期待される。

賛助会員　鹿島建設㈱、三井住友建設㈱、岩田地崎建設㈱、日本国土開発㈱、㈱NIPPO、㈱ガイアート、川田工業㈱、㈱中村建設、㈱建設技術研究所、㈱復建技術コンサルタント